

社保協ブロック事務局長会議（山形県）

2024年3月22日

報告者 工藤 剛

1. 山形県での活動経過と予定

- 12/22 酒田飽海地域社保協自治体要請キャラバン（酒田市）
- 12/26 酒田飽海地域社保協自治体要請キャラバン（遊佐町）
- 2/12 中央社保協 2023 年度全国代表者会議（web）
- 2/28 山形県社保協第 1 回四役会議（楳沢コミュニティセンター）
- 3/4 健康保険証を廃止せず存続を求める記者発表（山形県庁）
- 3/26 山形県社保協第 1 回運営委員会（楳沢コミュニティセンター）
- 4/15 以降 保険薬局に対する無料低額診療事業に関する山形県への要請行動（山形県庁）

2. 報告資料

- ①山形県社保協第 1 回四役会議の報告（P. 1～2）
- ②山形県社保協 2024 年度活動計画（P. 3）
- ③マイナンバー保険証に関するアンケート結果について（P. 4～6）
- ④健康保険証を廃止せず存続を求める意見書（案）（P. 7）
（山形市・米沢市・新庄市・寒河江市・上市市・村山市・長井市・天童市・東根市・尾花沢市の各市議会に請願）
- ⑤民医連の「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」の山形県の事例（P. 8）
- ⑥保険薬局に対する無料低額診療事業に関する山形県への要請行動の要項（P. 9～10）

山形県社保協第 27 期 第 1 回四役会議の報告

2024 年 2 月 28 日（水）14：00 榎沢コミュニティセンター

（出席）会長 1 副会長 事務局長 1 事務局次長 3

会長あいさつ

この間と当面の課題について意見交換することにして討議を開始した。

1. 情勢関係および報告事項

①情勢についての各記事

- ・岸田政権が 2024 年度予算案を閣議決定し、一般会計総額は 112 兆 717 億円となった。軍事費は 7 兆 9496 億円となり他の予算を圧迫し、社会保障費は自然増 5200 億円を 1400 億円削減する。消費税の税収が過去最高の 23 兆 8000 億円を見込み、貧困と格差の是正に程遠い予算案となった。
- ・群馬県桐生市では、生活保護の申請書をわたさない等の水際作戦が常態化しており、市の対応による被害は多岐および長期にわたっていた。1 月には被害を受けた当事者らが市を相手に国家賠償請求訴訟を行うことにした。
- ・新型コロナ第 8 波では、死亡者数の 16.5%が高齢者施設で亡くなっていることが調査でわかった。政府・厚労省は医療崩壊がより深刻になるのを回避するため高齢者施設での療養を認め、入院調整する自治体が入院を断る例も後を絶たず、人命を軽視する政治の責任が問われている。
- ・保育所の職員配置基準が 76 年ぶりに見直され、4～5 歳児では保育士 1 人につき子どもの人数の基準を 30 人から 25 人に改めるなどとする。日本の保育士配置基準は各国と比べてあまりに低く、アンケートをもとに全ての子どもの年齢で配置基準を現在の約 2 倍にすることが提言されている。
- ・青森県は全県での小中学校給食費の無償化を決め、新たに「学校給食費無償化等子育て支援市町村交付金」の創設を盛り込んだ 2024 年度当初予算案を発表した。予算額は平年では 38 億 800 円の見込みとなった。
- ・厚生労働相は、コロナによる患者負担や医療提供体制に対する公費支援を 3 月末で全廃する方針を表明した。コロナ治療薬の患者負担が最大 9000 円でも処方拒否する患者が発生しており、より多くの患者が処方拒否する事態となれば、医療逼迫につながる可能性が指摘されている。
- ・日本の GDP は 2023 年、ドイツを下回り 4 位となった。この間、非正規労働者の拡大とともに正規労働者の賃金も下げ、消費税は連続的に増税され、GDP の過半を占める消費を抑制した。内需を温めるために最低賃金を 1500 円に引き上げ、ケア労働者の賃金引き上げが求められている。
- ・2024 年度の国保料（税）について標準保険料率をもとに 4 人世帯で計算したところ、23 都道府県 937 市町村のうち 8 割強で値上げとなることがわかった。国保への国庫負担の削減・抑制が続けられており、国保料をさらに値上げすれば、物価高騰で厳しい暮らしに追い打ちとなる。

②中央社保協 12 月ブロック会議資料

厚生労働省への国民健康保険制度の改善を求める要望の各要望事項、第 2 回国保改善運動学習交流集会アピールについて参照した。アピールでは、国保制度の改善を国民的な課題として運動を展開していくため、全世代・全階層の問題として捉えることが必要とした。

介護・認知症なんでも無料相談（11/11）の結果について参照した。全国 30 都道府県 42 会場で相談窓口を設けて、340 件の相談を受けた。介護保険の改悪と介護人材不足が進み、介護サービスの抑制など利用者や家族、介護従事者が一層苦しめられており、介護疲れや施設への不満等の相談が寄せられた。

③「生活保護・扶養照会についてのアンケート」へのご協力と集約のお願い

生活保護の扶養照会について全国の自治体で調査し、その実態をもとに政府・厚労省に扶養照会の中止を求めるためのアンケートについて、中央社保協の提起と設問について参照した。期間は 11/29（金）までとなっており、それまで各自自治体に協力を依頼することにした。

④中央社保協 2023 年度全国代表者会議基調報告

基調報告の発表資料をもとに、この間の情勢の特徴、2023 年秋の運動の到達点、2024 年春の運動のすめかたについて参照した。春の運動 3 つの柱として i) 「軍事費の拡大より社会保障の拡充」を求め運動の推進、ii) 「保険証をのこせ」受療権を守り抜きたたかい、iii) 「生活保護」をめぐるたたかいの強化が掲げられた。

⑤健康保険証を廃止せず存続を求める意見書（案）

この間に内陸 11 市・山辺町・河北町・西川町・大蔵村・川西町の各市町村議会に請願した、国に対する意見書を参照した。i) マイナ保険証の運用について、トラブルが起こらない抜本的なシステムを構築すること、ii) マイナ保険証と並行して、現行の紙の保険証を廃止せず使用できるようにすることを要望事項として報告された。

⑥活動経過と予定

- 10/23～27・11/6 2023 年自治体要請キャラバン（内陸 11 市）
 - 11/17 鶴岡田川地域社保協自治体要請キャラバン（鶴岡市・三川町）
 - 11/18 山形県社保協第 27 回定期総会
 - 12/17 2023 年度中央社保協第 2 回国保改善運動学習交流集会（Web）
 - 11/20 鶴岡田川地域社保協自治体要請キャラバン（庄内町）
 - 12/22 社保協ブロック事務局長会議（Web）
 - 12/22 酒田飽海地域社保協自治体要請キャラバン（酒田市）
 - 12/26 酒田飽海地域社保協自治体要請キャラバン（遊佐町）
- [2024 年]
- 2/12 中央社保協 2023 年度全国代表者会議（Web）
 - 3/4 健康保険証を廃止せず存続を求める記者発表（山形県庁）
 - 3/22 社保協ブロック事務局長会議（Web）

2. 協議事項

(1) 2023 年自治体要請キャラバンのふりかえり

内陸 11 市でのキャラバン行動のふりかえりとして、生活保護の積極的な利用に向けた課題について意見交換した。この間の食糧支援行動での生活相談の状況等について意見があり、当事者の声や実態をもとに自治体に訴える取り組みが求められており、課題とすることにした。

(2) 山形県社保協の 2024 年度の活動計画について

要請行動として山形県への要請は 7 月中、自治体要請キャラバンは 10 月に内陸 11 市で実施することにした。第 28 回定期総会は、8 月下旬に開催することにした。中央社保協の全国総会、中央社保学校（大阪）、全国代表者会議に参加し、「やまがたの社会保障」第 10 号を発行することにした。四役会議と運営委員会は 3 月、6 月、9 月上旬、来年 1 月に議案となる各取り組みに合わせて開催することにした。

(3) 2023 年度（第 27 期）会費納入のお願いについて

各団体へのお願いについて提案され、3 月に各団体に送付のうえ 4 月末まで会費を納入いただくことにした。

（次回開催予定）

県社保協第 1 回運営委員会

2024 年 3 月 21 日（水）、26 日（火）、27 日（水）のいずれかで調整のうえお知らせいたします

山形県社保協 2024 年度活動計画 (案)

1. 要請行動について

①山形県への要請 (2023 年は 7/27 に実施)

2024 年 7 月に実施として要請内容を協議、日程を調整のうえ各団体に参加を要請します。

②自治体要請キャラバン (2023 年は 10/23～27・11/6 に実施)

2024 年 10 月に内陸 11 市で実施として要請内容を協議、日程を調整のうえ各団体に参加を要請します。

2. やまがたの社会保障」誌第 10 号の発行について (第 9 号は 2023 年 8/31 に発行)

2024 年 8 月に発行として各団体に寄稿を要請します。

3. 中央社保協 2024 年度全国総会 (現地または Web) への参加について

2024 年 7～8 月頃に開催。希望する各団体は参加します。

4. 第 51 回中央社保学校 (大阪または Web) への参加について

2024 年 8/31 (土) ～9/1 (日) に開催。各団体からの参加をよびかけます。

5. 山形県社保協第 28 回定期総会の開催について (第 27 回は 2023 年 11/18 に開催)

2024 年 8 月下旬に開催します。

6. 中央社保協 2024 年度全国代表者会議 (東京または Web) への参加について

2025 年 2 月に開催。希望する各団体は参加します。

7. 四役会議・運営委員会の開催について

3 月、6 月、8 月下旬か 9 月上旬、1 月に予定し、各活動の具体化について協議します。

8. その他の活動について

マイナンバー保険証に関するアンケート結果について

2024年3月4日
山形県社会保障推進協議会

私たちは、山形県内の医療団体や介護施設、高齢者団体、保育関係団体、生活協同組合、労働団体等で構成しており、医療、福祉、介護、保育、年金など社会保障制度の拡充をめざして、学習や宣伝、署名、行政機関への要望などの諸活動を推進しております。

政府は、今年12月には従来の健康保険証を原則廃止して、マイナンバー保険証に一本化する方針を示しています。昨年4月から、医療機関にオンライン資格確認システムの整備が義務付けられ、マイナ保険証の利用が始まって以降、多くの医療機関において様々なトラブルが相次いでいます。政府による昨年の「総点検」実施後も、抜本的に改善されているようには見えません。

私たちは、国民の命が守られ健康が増進され、暮らしに役立つ医療のデジタル化をすすめることは否定するものではありませんが、多くの国民、関係者の理解と合意を得ながら慎重に取り組むべきと考えています。

私たちは、マイナ保険証の使用にあたり、多くの医療機関で様々なトラブルが相次ぎ、利用率も5%にも満たず低いまま推移している中で、今年12月に現行保険証を原則廃止するとの政府方針を改めるべきと考えます。

そこで、この度、医師会（歯科医師会）で区分されている地域のうち、山形市、米沢市、上山市、長井西置賜、北村山、新庄最上、天童東村山、寒河江西村山の8地域にある839の病院・診療所・歯科診療所に郵送で、マイナ保険証に関するアンケート調査の協力を呼びかけました。その結果、270ヶ所から回答を得ることができました。回収率は32.2%となり、多くの医療機関からご協力を賜ることができたと受け止めています。

以下、設問項目に沿って、コメントを記載します。回答状況を見れば、マイナ保険証使用をめぐり、利用率が低い現状でも様々なトラブルが発生しているため、多くの場合、現行の健康保険証によって資格確認がなされていること、今年12月に現行保険証を原則廃止するという政府方針には多数の医療機関が否定的な考えを示していること等がわかります。

この度のアンケート結果を積極的に活用し、現行保険証を残すよう、署名活動や地方議会への請願運動、自治体への要望活動等に取り組んでまいります。

1. 問1 所在市町村・地域、問2 区分、問3 システム導入の是非

所在地の最多は山形市 38.2%、次いで米沢市 12.2%となっています。

地域医師会（歯科医師会）の別では、山形 38.5%、米沢 12.6%などの順となっています。

オンライン資格確認システムは導入が義務付けられていることもあり、97%とほとんどのところで導入しています。

2. 問4 トラブルの有無、問5 どのようなトラブル、問6 トラブルの具体的内容 問7 トラブルへの対応

トラブルが「あった」49.6%、「なかった」50.4%と、それぞれが概ね半数を占めています。

どのようなトラブルかについては、「設備の不具合によりマイナ保険証を読み取れなかった」が最多で 38.3%、次いで「保険者情報が正しく反映されていなかった」33.3%となっており、この二つでトラブルの7割を占めています。

トラブルの具体的な内容を記載する自由記載では、「読み取りができない」「インターネットが繋がらない」「顔認証ができない」「資格があるのにないとされる」「保険者情報を変更したのに更新されていない」「高齢者は操作がわかりづらい」などの声が目立ちます。

トラブルへの対応では、「従来の健康保険証で資格確認した」が 52.2%と半数を超えています。このことは、従来の保険証を廃止した場合、資格確認ができなくなる可能性があることを示しています。次いで、「レセコンメーカーに相談した」17.7%、「前回来院した時の情報で対応した」13.3%となっています。

3. 問8 いったん10割負担を請求したことの有無

「なかった」が 86.9%でほとんどです。一方、「1~4件」が 10.0%、「5件以上」が 3.1%に及んでいるのは、少数とはいえ、一時的でも患者に過大な負担を求めることになるだけに重大です。

4. 問9 今年12月従来の保険証廃止方針について

「廃止すべきでない」が 57.4%、「延期すべき」20.4%と合わせて 77.8%に及んでおり、政府の今年12月の廃止方針に対しては、否定的あるいは慎重な考えが多数を占めています。

5. 問10 マイナ保険証利用を推奨したいか

「どちらとも言えない」が 45.2%と最多であり、医療現場の当事者の複雑な心境が現れていると考えられます。

6. 問 11 マイナー一本化、従来の保険証廃止についての意見

自由記載欄にはたくさんの意見が記載されていました。

「医療 DX はすすめるべき」「一本化が合理的で便利」などマイナー一本化に賛成の意見も見られました。

一方、「従来の保険証も残すべき」「両方使えるように」「拙速」などの一本化への反対、慎重な意見は数多く寄せられました。また、条件整備を求める声も見られました。

「従来のままで不便はない」「必要がない」など必要性そのものがないとする意見や「保険証は存続すべき」「両方使えるように」との意見が目立ちます。また、「保険証廃止になれば何をもって資格確認すればよいか」「トラブルやデメリットが解消されない限り一本化すべきでない」などの意見が多く見られます。

「一本化への移行に時間が足りない」「議論不足」の声も寄せられました。

また、読み取りができない場合や顔認証がうまくいかない場合の対応など「窓口業務の負担が増大する」との懸念も示されています。人手不足が深刻な医療機関にとっては死活問題です。とりわけ、高齢者にとって使いづらく扱いがむずかしいという声が数多く寄せられています。現場の職員はこうした高齢者に窓口で対応しなければならず、一層の困難を予想せざるを得なくなっていると考えられます。また、高齢者施設の入居者、認知症の高齢者などへの対応の困難さも懸念されています。山形県のような高齢化率が高い地方では大きな問題です。さらに、オンラインシステムの整備など、医療機関が費用負担をしなければならなくなることも不安要因となっています。

その他、保険情報が正しく反映されない、変更しても速やかに反映されない問題、子ども医療証などいろいろな医療証や公費受給などがひも付けられていない現状などの指摘も複数寄せられています。

以上

健康保険証を廃止せず存続を求める意見書（案）

政府は現行の健康保険証を令和6年12月に廃止し、マイナンバーカードと健康保険証を一体化しマイナンバー保険証に一本化するとしている。昨年、政府はマイナンバーのひも付けの誤りに関する総点検を行い、誤って登録されていた公的情報の半数以上が健康保険証であることが明らかとなった。また、総点検とは別に厚生労働省によるマイナ保険証の点検によれば、住民基本台帳の氏名や住所と一致しないものが約139万件にのぼった。こうした状況の中で、健康保険証が廃止されようとしていることに心配や懸念の声があがっている。

山形県社会保障推進協議会が1月から2月初めにかけて県内の約840の病院・診療所にアンケートを実施したところ、約270ヶ所より回答が寄せられた。その結果によると、トラブルの有無については半数を超える病院・診療所でトラブルが「あった」と回答しており、トラブルへの具体的な対応としては「従来の健康保険証で資格確認した」が最多となっている。また、従来の健康保険証を今年12月に廃止する政府の方針については、「廃止すべきでない」と「延期すべき」を合わせて7割を超えている。また、資格確認ができなかったため、医療費をいったん10割患者に請求したとの回答もあった。

さらに、能登半島地震のように災害・停電等によるシステム障害の際には、マイナ保険証では被保険者情報が券面で確認できず、有効なものとは言えない。

政府はマイナ保険証を登録しない人にも、申請がなくても「資格確認書」を交付するとしているが、受診の際に複数の手続きが併存することとなり、医療現場はもとより健保組合や自治体の事務負担が増大することは必至である。

この間、マイナ保険証の利用率はわずか4%台で推移している。それでも、多くのトラブルが発生しており、このまま現行の健康保険証を廃止すれば混乱をきたし、誰もが医療をうけられる国民皆保険制度の根幹が揺るぎ、必要な医療にアクセスできなくなる事態につながりかねない。また、個人情報保護の観点からも、情報流出・漏洩などの重大な懸念もぬぐえない。以上のことから、下記事項について要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

記

1. マイナ保険証の運用について、トラブルが起こらない抜本的なシステムを構築すること。
2. マイナ保険証と並行して、現行の紙の保険証を廃止せず使用できるようにすること。

全日本民医連 2023 年「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」
酒田市の県連加盟事業所から報告された事例の概要

金銭的に厳しいことを理由に受診を自己中断した患者の事例

70 代男性、持ち家にて独居生活、無職で収入は本人の年金収入 5 万円未満。定年まで仕事をしていたが、どのような仕事かは不明。地域との繋がりはなく、自治会会員として回覧板を回す程度。70 代と比較的年齢が若く、一人で生活も行うことができていたため、民生委員も訪問していなかった。

糖尿病等のため長年自院に通院しており、2023 年 2 月にも外来受診を予定していた。しかし、受診当日に来院せず外来看護師が連絡したところ、「お金がなくて受診することができない」と話があり、受診を中断した。その後、外来より状態が悪化する可能性が高い患者として地域包括支援センターに介入を依頼し、同月に本人宅に訪問し、実態把握とともに無料低額診療について説明した。無料低額診療について質問はあるものの利用には繋がらなかった。その後、2023 年 3 月に同様の理由で訪問したが玄関に鍵がかかっており、自宅ポストに新聞が 6 日分入ったままとになっていた。警察に報告し安否確認をしてもらうと、自宅内で本人が亡くなっているところを発見された。

毎月の手取り収入が 4 万円と発言があり、以前に無料低額診療を自院の相談員が 2 回ほどすすめたことがあった。本人は家族や近隣住民との交流がなく、身近に頼れる人がいないこと、本人が他人や制度に頼ることに抵抗があり、経済的困難により受診を自己中断し、手遅れになったと考えられた。

無料低額診療についてはメディア（CM や新聞・広告）で国が定期的に情報発信し、誰もが知っている身近な制度として周知できていれば、拒否なく利用することに繋がり、救えたのではないかと考えられた。また、無料低額診療について患者や地域住民に周知するとりくみ、無料低額診療について理解できない人や拒否がある人に対してのアプローチ方法等を医療・福祉関係者に研修してもらう等の方法も考えられた。

保険薬局に対する無料低額診療事業に関する山形県への 要請行動の要項（案）

1. 日時：2024年4月15日以降の月・火・金曜いずれかの午後の時間帯1時間程度
2. 集合時間と場所： 時 分に山形県庁正面入り口から左側のロビー
3. 参加者
県連代表として県連理事のかた、県連無低診患者の薬代助成の検討PJ委員、事務局
4. 要請行動の次第（予定）
 - ① 県知事（県側代表）への署名の手渡し（県連代表として県連理事のかた）
 - ② 県連代表あいさつ
 - ③ 県側代表あいさつ
 - ④ 要請への山形県からの回答
 - ⑤ i) 無低診における「調剤費」についてのアンケート調査のまとめを報告
ii) 医療現場からの声としての発言（病院MSWの委員に事例の報告をお願いします）

2024年4月 日

山形県知事 吉村美栄子 様

山形県民主医療機関連合会
会 長 小川 裕

保険薬局に対する無料低額診療事業に関する要請書

【要請趣旨】

わが国は国民皆保険制度にもかかわらず、経済的な理由で十分に医療にかかれな
い方も少なくありません。そのような方に対しては、社会福祉法第2条3項9の「生
活困窮者に対して無料又は低額な料金で診療を行う事業」（いわゆる無料低額診療
事業）を実施している医療機関において診療を受けることができます。

しかし、医薬分業が進展する昨今においても保険薬局は無料低額診療事業の対象
事業所にされていないことから、院外処方箋を発行する無料低額診療事業の医療機
関を受診された患者さんのお薬の自己負担は、その対象となっていない。

私たちが加盟する全日本民主医療機関連合会（民医連）では、これまでも無料低
額診療事業を所轄する厚生労働省社会援護局に対して対象事業所の拡大を申し入
れしてきましたが、実現に至っていないのが現状です。

しかし、このような状況を鑑み、旭川市・東川町・東神楽町・苫小牧市・浦河町・
帯広市・音更町・美瑛町・青森市・高知市・那覇市・豊見城市では市町の独自事業
として無料低額診療を利用する方の保険薬局での薬代の助成を実施されています。

山形県民医連が2023年7月に行ったアンケート調査では、県内で無料低額診
療を実施するほとんどの医療機関で医療費と薬代の負担で困っている人がおり、無
料低額診療の周知と積極的な利用が必要とされています。また、無料低額診療の対
象者であっても、外来診療で発生する薬代負担により受療が困難となった事例も寄
せられており、薬代の軽減は切実な課題となっています。

つきましては、院外処方箋をもらわれた患者さんにおいても安心して無料低額診
療事業が受けられるよう、以下のことを要請します。

【要請内容】

1. 無料低額診療事業の周知を促すためのポスターやパンフレットを作成
し、医療機関や役所等の公的機関での活用ができるようにして、お金の
心配なく必要な医療を受けられるようにしていただきたいこと。
2. 保険薬局が無料低額診療事業の対象となるまでの期間、山形県におい
て独自のお薬代の助成制度を設けていただきたいこと。

のメンバーを擁護する議員の派の自民党は本会議前に議員総会を開き、会派の候補を決める。現時点で矢吹氏のほかにも意欲を示す議員はおらず、予備選は行われな

いとみられる。

県政クラブ（14人）は自

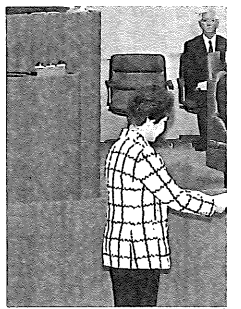
別委員会を審議、調査した

政策提言は本年度の3特

政策提言を手渡す森田広真議

議長（中央右） 県議事堂

震への対応力強化や子ども
の居場所づくりなど喫緊の
課題解決に向けた政策提言
を吉村美栄子知事に提出し
た。



目標数値を明記し、温室効
果ガスの排出抑制などに力
を注ぐ内容で、市は今月中
に計画を策定する。

市地球温暖化対策実行計
画を包含し、市内からの30
年度の温室効果ガス削減目

を旨とする。市民アンケートの結果な
どを踏まえ、地球温暖化へ
の対応▽循環型社会の展開
▽安全安心な生活環境の保
全▽多様な豊かな自然環境
の継承▽環境学習の推進の
五つの目標を設定。持続
可能な開発目標（SDGs）
と関連付け、市民の意識高

現行廃止、否定的意見多く

県社保推進協議調査

の約半数が読み取りができないなどのトラブルがあったと回答した。今年12月での現行保険証の廃止については、窓口業務の負担増などを懸念し、多くの医療機関から否定的な意見が寄せられた。

同協議会は県民主医療機
関連合会（民医連）など12
団体で構成。今年1〜2月
に県内の病院、診療所、歯
科診療所など計839の医
療機関に調査協力を求め、
270施設が回答した。

割負担を求めた経験がある
とした。

現行保険証廃止に関し、
「廃止すべきでない」「延
期すべき」の回答が8割近
かった。「従来の保険証で
不便はない」「紙とマイナ
保険証の両方を使えるよう
にしてほしい」などの意見
が多く、「医療のDX（デ
ジタルトランスフォーメー
ション）は必要」「一本化
は合理的」と廃止に好意的
な声もあった。

4月の衆院
選挙を巡り、共
産、立民候補

県内医療機関 半数トラブル

マイナ保険証

健康保険証の機能をマイナバ
ーカードに持たせる「マイナ保
険証」を巡り、県社会保障推進協議
会のアンケートで、県内医療機関

同協議会は県民主医療機
関連合会（民医連）など12
団体で構成。今年1〜2月
に県内の病院、診療所、歯
科診療所など計839の医
療機関に調査協力を求め、
270施設が回答した。

マイナ保険証を読み取る
カードリーダーなどを導入
済みとした262施設のうち
130施設が「トラブル
があった」と回答。システ
ム不具合や保険証の情報
が正しく反映されていない
などの内容が大半を占めた。
トラブル対応の内訳は
「現行の保険証で資格確認
を行った」52・2%、「読
み取り機器のメーカーに相
談」17・7%、「前回の来
院時の情報を活用」13・3
%。さらに、17施設がマイ
ナ保険証での資格確認がで
きず、一時的に医療費の10

同協議会は、健康増進や
生活利便性確保につながる
DX推進は否定しないとし
る一方、「国民や医療関係
者の理解と合意を得ながら
慎重に進めるべきだ」と強
調する。調査結果を踏まえ、
廃止撤回の署名活動や自治
体への要望活動に努めると
している。

同協議会は、健康増進や
生活利便性確保につながる
DX推進は否定しないとし
る一方、「国民や医療関係
者の理解と合意を得ながら
慎重に進めるべきだ」と強
調する。調査結果を踏まえ、
廃止撤回の署名活動や自治
体への要望活動に努めると
している。

祖母と作った過
齋藤ひよりさん

鶴岡市と山形大 災害対策で協定

教員が対応助言

鶴岡市は18日、山形大と
災害対策などの推進に関す
る協定を結んだ。市内で災

害が発生した際、同大災害
環境科学研究ユニットの教
員らから、避難指示の発令
など対応についてアドバイ
スを受ける。

選挙を巡り、共
産、立民候補



協定書を掲げる本山功教授
（左から2人目）と皆川治市長
（同3人目）ら 鶴岡市役所

市役所で締結式が行わ
れ、皆川治市長、同ユニッ
トの本山功理学部教授と熊
谷誠地域教育文化学部講師
らが出席した。皆川市長が
「共に災害に強い地域づく
りに取り組むたい」、ユニ
ット長の本山教授が「地域
防災の知識の普及などに努
めていく」とあいさつした。
県内自治体と同大との災
害協定は初という。同市西
目で発生した土砂崩れなど
を機に市が協定締結を提案
した。今後、市内で土砂災
害の危険がある場所にセン
サーを設置するなどモニタ
リング調査の実施も検討す
る。

選挙を巡り、共
産、立民候補

衆院島 野党が

共産、立民候補

12分野から
大。特定技能
れ見込み数は
からの5年間
と試算され、